



平成 23 年度

2011

財団設立後17年が経過しソフト面の老人介護施設職員の資質向上を目的とした職員向けの研修、介護現場で利用者への接し方、専門的な知識と技術を身に着ける研修会等、参加者の意見を取り入れ研修内容の充実をはかり三重県下から多数参加するようになり9回167施設217名の参加を得た。

ハード面の助成事業として、多気町の一人暮らし老人の福祉充実を図る目的で福祉仕様の送迎リフト車輛を寄贈、近年インフルエンザの流行に伴い介護施設での感染予防対策のため空気清浄機の活用が増加しイオン発生機プラズマクラスター、軽自動車、各種車椅子等の備品を寄贈し、吉田逸郎理事長から目録並びに備品の贈呈を行った。

記念講演では、超高齢化社会を迎え、平成12年4月の介護保険制度導入から12年が経過した平成24年4月に4回目の介護報酬改正が実施されるのに伴い改正の要点を三重県健康福祉部長寿社会室中村徳久副室長の「介護報酬の改正について!」と題した記念講演を行い、助成を受けた宮川福祉施設組合、戸川昌二施設長と(社)名張厚生協会、増井明施設長の二法人から寄贈並びに施設職員研修会開催の感謝及び助成品活用状況等法人の活動報告を受けた。

東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)で被災した岩手・宮城・福島三県で、5月4日現在、介護保険適用に必要な「要介護認定申請」が2,960件滞っているが被害が甚大な15市町村では「介護認定審査会」も開けていないし件数を正確に把握できていない自治体もあり、実数より大幅に上回っている。

東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)の発生から1ヶ月が過ぎた4月11日、福島県内では余震とみられる地震が相次ぎ、午後5時16分頃には、いわき市などで震度6弱を観測、午後8時42分頃、須賀川市などで震度5弱を観測した。

4月12日現在、確認した死者は余震を含め12都道県で1万3,219人。また、宮城県南三陸町の行方不明者632人が新たに計上され、行方不明

者は1万4,274人になった。死者と行方不明者は合わせて2万7千493人となった。地震発生から2ヶ月が経過し被災地では避難先で衰弱し介護を求める高齢者が増加、介護保険適用に必要な「要介護認定申請」が2,960件位滞っている状態で、岩手、宮城、福島の3県で認定審査会が開かれていない自治体が15市町村にも及んでいる。

東日本大震災で、濡れたり焼けたりした紙幣の交換に日本銀行に持ち込まれたお札や硬貨が4月13日までに9億円を超えた。

東日本大震災で宮城県石巻市立大川小学校では全校児童の約7割にあたる74人の死者・行方不明者を出した。

東日本大震災の震源付近の海底が地震に伴い、東南東に24メートル移動し3メートル隆起していた。地盤沈下が確認され、最大は岩手県陸前高田市で84センチを記録した宮城県石巻市の78センチ、同県気仙沼市の74センチ、岩手県大船渡市の73センチ、宮古で津波38.9メートルを記録。国土地理院の調査では、宮城県石巻市の牡鹿半島で最大116センチ沈下していたほか、岩手県で77センチ、福島県で50センチ、茨城県で46センチ、千葉県で15センチの沈下を観測した。今月5～10日に岩手、宮城、福島三県で行った実地調査でも、宮城県石巻市で78センチ、同県気仙沼市で74センチ、岩手県大船渡市で73センチなど、調査した28カ所すべてで沈下を確認した。

福島原子力発電の事故が1986年の旧ソ連のチェルノブイリ原発事故と同じ国際評価最悪のレベル7と判定された。

日本相撲協会は、臨時理事会を開き、八百長問題を解明していた特別調査委員会が八百長に関与したと認定した幕内、十両力士ら計23人に対して、事実上の角界追放となる「引退勧告」「退職勧告」「2年間の出場停止」の厳罰を通告し23人全員の引退届を受理した。

弟子が関与した八百長事件で師匠17人も処分を受け、北の湖(元横綱)、九重(元横綱千代の富士)、陸奥(元大関霧島)の3親方は理事辞職に追い込ま

れた。11日には2力士に対して引退勧告が追加され、5月8日初日の夏場所に変わり5月技量審査場所を一般に無料開放として開催。八百長問題で春場所が中止され、夏場所は技量審査場所として実施されたため、番付表が作成される本場所は初場所以来、半年ぶりで名古屋場所の開催となり不祥事つずきの相撲界も大関魁皇が1,046勝の新記録を達成した。

脳死臓器移植を認めた改正法が昨年7月に施行されて以来、15歳未満からの脳死臓器移植は初の適用例となる。臓器移植が行われ心臓、肺、肝臓など6臓器が提供され、4月14日臓器移植を完了した。

東日本大震災は5月11日で発生から2カ月になる。大地震、大津波に東京電力福島第1原発事故が加わった複合災害で1万4,981人が死亡し、行方不明者もまだ9,853人いる。避難所に身を寄せる住民は岩手、宮城、福島の東北3県を中心に12万人近くに上る。避難生活の長期化は避けられず、3県は当面必要な仮設住宅を計5万8,000戸と見積もり、建設を急ぐ。

5月10日現在、福島第1原発の半径20キロ圏内が警戒区域とななり5万9,020人が避難所での生活を余儀なくされている。県内の避難所で生活している住民が2万4千965人なのに対し、県外避難者は3万4,055人。避難先は44都道府県に拡大している。5月10日福島第1原発から半径20キロ圏内の福島県川内村の住民92人が桜の花が残る遅い春を迎えた我が家に防護服で2時間の一時帰宅が実施され、震災から3ヶ月が経ってからの帰宅となった。

東日本大震災は6月11日で発生から3カ月になり複合災害で1万5,413人が死亡し、行方不明者がまだ8,069人いる。

東日本大震災は7月11日で発生から4カ月になり複合災害で1万5,550人が死亡し、行方不明者がまだ5,344人いる。

7月18日サッカーワールドカップ女子大会で、なでしこジャパンが優勝し、

世界一となり震災で落ち込んでいた日本を明るく勇気づけられた。

1953年に始まったアナログテレビ放送は7月24日に58年間の放送が終了し、デジタル放送に移行された。

9月2日に第95代内閣総理大臣に野田佳彦が任命され、第94代内閣総理大臣の菅直人の在任期間は452日となる。

9月4日の台風12号では紀伊半島に1000ミリ超となる記録的な大雨となり三重県では紀宝町、熊野市、大台町で非難勧告・指示が発令され多くの孤立集落が出た、和歌山県や奈良県では大規模な土砂災害が発生し土砂で川がせき止められ幾つもの土砂ダムができ大被害をもたらした。

9月21日の台風15号が紀伊半島から日本列島を北上したため東京都心では交通機関が麻痺し東日本大震災時に発生した帰宅難民と同じ現象が起きた。名古屋市では最大100万人の避難勧告が出された。

10月11日には東日本大震災で最悪の人的被害を出した石巻市で震災から7ヶ月ぶりに学校などに設置していた全ての避難所が閉鎖された。

東日本大震災は3月11日で発生から1年になりますが複合災害で1万5,854人が死亡、行方不明者も5,155人となり、死者・行方不明者の64%が60歳以上が占めている、仮設住宅や住み慣れた土地を離れての避難生活者は34万人余りとなり不住な生活を強いられている。

3月21日、第84回選抜高校野球が開会し東日本大震災で被災しながら、21世紀枠で選出された石巻工業の主将が日本が一つになりその苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じています。だからこそ日本中に届けます。感動、勇気、そして笑顔を見せましょう。日本の底力、絆を」と力強く選手宣誓を行ない甲子園の観衆から大きな拍手が送られた。

平成23年度助成事業目録贈呈式



吉田逸郎理事長挨拶



記念講演



寄贈品並びに目録贈呈

平成23年度助成事業目録贈呈式



贈呈式



活動報告 戸川宮川福祉施設組合施設長



活動報告 増井名張厚生協会施設長

老人福祉施設等整備事業(助成・寄贈)

3,580,100円

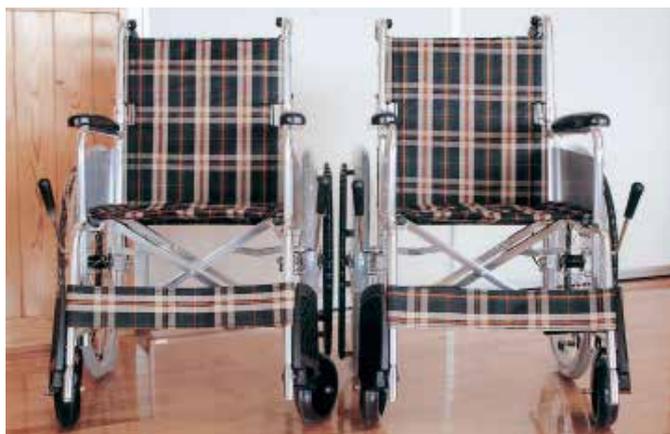
平成23年度
寄贈品
一覧



軽自動車リフト付送迎車輛 (福祉仕様) / 1台



軽自動車 / 1台



自走式・介助用車椅子／21台



フルクレンジング車椅子／7台



マイチルト車椅子／4台



エアーマット／5台



離床センサー／4台



イオン発生機プラスマクラスター／3台



衝撃緩和マット／4台

多気町

老人福祉環境整備事業

1,230,000円

一人暮らしの高齢者・高齢者世帯・障害者等が公共交通機関の利用が困難な方や、公共交通機関の無い地域の送迎サービスに必要な

◆ 軽自動車リフト付送迎車輛（福祉仕様） 1台

多気町

社会福祉協議会

老人福祉環境整備事業

630,000円

天啓の里の包括支援センターの相談件数の増加と介護予防事業の送迎の乗降に支障が出ない軽自動車の配備

◆ 軽自動車 1施設 1台

近 隣

- ・ 松阪市
- ・ 伊勢市
- ・ 多気郡
- ・ 度会郡

各老人福祉施設

老人福祉環境整備事業

530,800円

所有備品の老朽化、介護度の高い利用者が増加し不足と更新、

◆ 自走式介助用車椅子 2施設 9台

宮川福祉施設組合（特養 やまびこ荘） 5台

（社）伊勢市社会福祉協議会（デイ いきがいの） 4台

◆ フルリクライニング車椅子 2施設 2台

（社）愛恵会（老保 緑風苑）

（社）司 会（老保 弘樹苑）

◆ マイチルト車椅子 1施設 1台

（社）邦栄会（特養 双寿園）

老朽化と備品不足による整備

◆ エアーマット 2施設 2台

（社）南伊勢町社会福祉協議会（デイ 和）

（社）キングスガーデン三重（福祉施設 大台共生園）

ベットでの動向を把握するため

◆ 離床センサー 1施設 1台

（社）あおば会（デイ 青葉）

環境改善（かぜ予防）

◆ イオン発生機プラズマクラスター 1施設 1台

（社）大台町社会福祉協議会（デイ）

車椅子利用者の増加による不足と老朽化による更新、利用者の高齢・重度化に伴う利用者増と老朽化による更新・重度化に伴う機能の高い車椅子で離床時間を快適にするための提供、貸出事業の整備、

◆ **自走式介助用車椅子 4施設 12台**

- (社) 津市社会福祉協議会(デイ 美杉支所) 5台
- (社) 名張厚生協会(特養 名張老人ホーム) 5台
- (社) 御浜町社会福祉協議会(デイ) 1台
- (社) 平成福社会(老施 ヴィラ四日市) 1台

◆ **フルリクライニング車椅子 5施設 5台**

- (社) 青松園(特養 青松園)
- (社) エイジハウス(特養 エイジハウス)
- (社) 亀山市社会福祉協議会(貸出 本所)
- (社) 風薫会(デイ みなと)
- (社) 青山福社会(特養 森の里)

◆ **マイチルト車椅子 3施設 3台**

- (社) いろどり福社会(複施 花紬)
- (社) 柊 会(特養 華旺寿)
- (社) いがほくぶ(特養 彩四季)

利用者の重度化で、寝たきりが増加しているため褥創及び疾病予防、

◆ **エアーマット 3施設 3台**

- (社) アイ・ティ・オー福社会(特養 ハートヒルかわげ)
- (社) 永甲会(特養 うねめの里)
- (社) 敬親会(特養 さわやか園)

身体機能の重度化、利用者の寝たきりや認知症が増加しベットからの転倒防止、安全確保に不可欠

◆ **離床センサー 3施設 3台**

- (社) こしば福社会(老保 トマト)
- (社) 翠明院(養護 翠明院)
- (社) 宏育会(特養 よっかいち諧朋苑)

環境整備、インフルエンザの予防対策、感染症予防対策、

◆ **イオン発生機プラズマクラスター 2施設 2台**

- (社) 尾鷲市社会福祉協議会(デイ いきいき)
- (社) 富田浜福社会(デイ 富田浜)

ベットからの転落・徘徊による転倒で重大な事故を未然に防ぐため、

◆ **衝撃緩和マット 2施設 4台**

- (社) 寿泉会(特養 泉園)
- (社) 憲甚会(特養 ソフトハウス)

老人福祉施設団体従事者研修事業

726,890円

介護事業施設職員接遇研修会に先がけ、平成23年度介護事業施設職員研修会の開校式を行い、吉田副理事長の挨拶の後、今年度実施する9回の研修会をスタートさせた。



開会挨拶 吉田嗣朗副理事長

第1回 介護施設職員研修会（接遇3年未満）（15）

（参加 34施設 47名）5月26日

法人（愛恵会・宮川福祉施設組合・度会町社協・こしば福祉会・長寿会・絆・むつみ福祉会・エイジハウス・青松園・恵成会・玉城町・青山福祉会・紀南特養ホーム組合・明合乃里会・多気町社協・熊野市社協・長茂会・紀和会・愛友会・敬親会・杏南会・伊勢市社協・南伊勢市社協・キングスガーデン三重・三重豊生会・永甲会・アイ・ティ・オー福祉会・弘仁会・川越町社協・いがほくぶ）

新規採用から3年未満の介護施設職員を対象とした接遇研修も回を重ねる毎に参加者も増え、中には指導的立場の職員も参加され福祉業務に携わる新卒から人生経験豊富な職員まで幅広い参加となり年々希望者も増え介護職の仕事をして行く上で利用者への対応の仕方の難しさを勉強し自分の仕事に誇りを持ち充実した毎日を過ごし、利用者に満ち足りた気分を与え、お互いの成長の手伝をするための研修。



講演 “心からのサービス” 介護従事者の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション
2. 社会人としての心構え
必要な基本能力とは、職場のエチケット、第一印象の大切さ
3. お客様を迎えるマナー
挨拶と丁寧なお辞儀、表情の大切さ、感じのよい態度、身だしなみとオシャレ
4. 社会的な言葉づかい
依頼文・肯定文、職場での言葉づかい、話し方の工夫
5. 応接の基本動作
物の授受、名刺の交換、指し示し方・案内の仕方・印鑑の処理・書類の破棄
6. 利用者送迎の応対
訪問時のマナー、言葉のトレーニング、送迎時の応対実習
7. ビジネス電話応対
電話の受け方・かけ方、事例による応対実習、取次ぎ電話応対・伝言メモ・道案内
8. サービスの心得

受講生の感想

言葉の大切さ表情の重要性を痛感した、自分がどれだけマナーを知らなかったか教えられた、常に元気で明るく笑顔の似合う介護職員になります、第一にサービス業であることを感じ人と人との対応やコミュニケーションが大切なことを実感、普段の会話で不快感を与えず一番大切なことは相手への気遣いであることを実感、信頼され優しく気遣いのできる介護職員を目指したい、研修内容を持ち帰り施設が良くなるように努めたい、利用者に伝わらなければ意味がないことを痛感、名刺交換・電話対応の研修は初めてで人前でするのは恥ずかしいと感じていた。

第2回 介護施設職員研修会（接遇4年以上）（16）

（参加 30施設 44名）6月16日

法人（宮川福祉施設組合・むつみ福祉会・熊野市社協・青松園・こしば福祉会・ウエルケア・明合乃里・長寿会・エイジハウス・愛友会・敬親会・杏南会・南伊勢町社協・いがほくぶ・敬愛会・三重郡老福組合・絆・紀南特養ホーム組合・愛恵会・アイティオー福祉会・三重豊生会・育心会・はまゆう会・キングスガーデン三重・青山福祉会・恵成会・伊勢市社協）

介護職勤務4年以上の職員を対象とした接遇研修で、30名定員をはるかに超える受講者で一人一人熱心に研修を受け自分の物にしようとの努力が感じられ研修の成果を職場に帰ってフィードバックして行きたいとの感想も聞かれました。

研修開始の挨拶では声が小さく聞こえにくかったが時間が経ち休憩を挟む頃にはしっかりした口調で挨拶が出来るようになった。

話し方の工夫の実技ではアクセントの取り方に苦労していた受講者も多く介護の声かけの実技では利用者の75%が「嬉しい」と言われる言葉を取り入れて行い介護職として利用者に対しての声掛けやコミュニケーションの取

り方等、接遇の必要性の認識を高め電話対応の実技では相手が見えないため早口になったり喋り方に強弱が付けられずに一本調子になる会話等難しさを感じられました。



講演 “心からのサービス” 介護従事者の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション
2. 話し方の工夫、職場での話し方
3. 介護の上手な声かけ
4. 話し方・聞き方のマナー
5. コミュニケーション
6. 応接の基本動作
7. 第一印象と挨拶
8. 表情と態度
9. 身嗜みと言葉遣い
10. 来客と訪問対応
11. 電話対応の基本・用語・苦情

受講生の感想

普段意識しているようで出来ていない事を痛感、職員に参考になる研修事項が多いので職場に持ち帰って伝えたい、職員間で共有したい研修内容、直していく点が多々ある、常に笑顔を忘れず接して行きたい、普段の会話が利用者には色々な受け取り方があり不快感を与えていたのでは、学んだことを生かせるよう心がけたい、実技を交えての研修は恥ずかしく大勢の人前で恥をかくことも良い経験でした、接遇マナーの研修機会が少なかった。

第3回 認知症介護研修会（4）

（参加 9施設 12名） 7月14日

法人（多気町社協・尾鷲市社協・愛恵会・愛友会・宮川福祉施設組合・育心会・いりどり福祉会・青山福祉会）

認知症高齢者の方に対する介護サービスの提供には、より高度な専門性が必要なことから高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者に対し認知症介護に関する研修を実施し認知症介護技術の向上を図ることを目的とします。

施設において認知症の利用者が増える中、介護職員の介護対応が切実な問題として起こっております。今回の研修は「認知症の家族の生活」と「実際に認知症になった家族との絆の講演」のDVD 2本を見てグループでの意見交換をしていただく研修会にしたい。



講演 認知症介護研修 「認知症の人へのかかわりを振り返る」

講師 サポートさくら 大西道子、野口美枝

認知症の介護は本人が何をしたいかを察知し、出来るだけ本人の気持ちを大事にし自分で出来るように支援する介護者の都合で認知症の人の行動を迎え込んだり介護漬けにしない。

記憶が不安定になっているので「何々を覚えている」とか、以前のことを聞き出すようなことはしないでアドバイスをするような接し方をする。

1. 映画「折り梅」観賞

映画を見ながら場面と主人公の気持ち、その理由を観察しメモする（演習1）

2. 個人ワーク

映画「折り梅」から

- 1) 主人公の人が体験している気持ち（体験している世界）は？
- 2) わるい状態となった理由、原因は何故か？
- 3) よい状態となった理由は何故か？

3. グループワーク（演習2）
 - 1) 自己紹介、司会、発表者を決める
 - 2) 意見交換
4. 「クリスティーヌ・ブライアン講演」から考える 観賞
5. グループワーク（演習3）
 - 1) DVDを観賞して・自分のケアを振り返る
 - 2) よい状態にするにはどうしたらよいか？（対応方法）
 - ア) ケアを提供するにあたって知っておきたい情報とは何か
 - イ) 接し方、コミュニケーションの取り方
 - ウ) 環境をどう整えたらよいか
 - エ) 介護で大切にしなければならないこと
6. グループ発表

認知症の人の心の理解とケアについて（まとめ）
7. 認知症の人とのコミュニケーションの取り方（講義）

お互いを感じることや考えていることを伝え合うこと。笑顔、アイコンタクト・言うことを繰り返す・優しく触れる・思い出話をする

受講生の感想

優しい気持ちが利用者に良薬になるのかと思った、認知症の利用者に対する考え方が変わった、今日の研修を他の職員に伝え実践したい、

第4回 認知症介護研修会（5）

（参加 16施設 19名） 8月25日

法人（尾鷲市社協・多気町社協・宮川福祉施設組合・名張厚生協会・愛恵会・紀和会・敬愛会・玉城町社協・愛友会・エイジハウス・明合乃里会・青山福祉会・青松園・北斗会）

施設において認知症の利用者が増える中、介護職員の介護対応が切実な問題として起こっております。今回の研修は「認知症の家族の生活」と「実際に認知症になった家族との絆の講演」のDVD 2本を見てグループでの意見交換をしていただき認知症の人に対する関わりについての研修会とした。



講演 認知症介護研修 「認知症の人への関わりを振り返る」

講師 サポートさくら 大西道子、野口美枝

1. 認知症の人の心の変化と支援のポイント

認知症は「4段階のステージ」を踏んで進行していく

初発期（1～2年）とまどい・不安の時期

記憶障害（いまさっきのことを覚えていない）

感情障害（感情が不安定でコントロールが出来ない）

人格変化（その人らしさが失われる）

初期（1～2年）否定・怒りの時期

見当識障害（時間・場所・人物がわからない）

理解・判断力の障害

計算力障害（簡単な足し算、引き算が出来ない）

実行機能障害（場所や物の使い方がわからない）

中期（3～5年）抑うつ時期

記憶障害が激しくなり、徘徊・妄想などの周辺症状がひどくなる

末期（5～8年）無欲・安定の時期

日常生活全般に介助が必要となる

2. 映画「折り梅」観賞

映画を見ながら場面と主人公の気持ち、その理由を観察しメモする
（演習1）

3. 個人ワーク（演習2）

映画「折り梅」を観賞して（自分のこれまでのケアを振り返る）
感じたこと～支援者として利用者の心にどう向き合ってきたか～

4. グループワーク（演習3）

自己紹介、意見交換

～認知症の人が求めているケアとは～

場面を出し合い、具体的な支援のポイントを話し合う

・接し方・知っておきたい情報・どのような環境が望ましいか

（環境的配慮）・介護者として大切にしたいこと

5. グループ発表・まとめ

認知症の人の心の理解とケアについて（まとめ）

6. 認知症の人とのコミュニケーションの取り方（講義）

お互いを感じることや考えていることを伝え合うこと笑顔で接し、
アイコンタクト（目と目を合わせて話す）・言うことを繰り返す・優
しく触れる・思い出話をする、その人に合った話し方をする（土地の
方言を使う）

受講生の感想

業務が作業になっており、ケアに変える事と、自分に余裕を持ち対応につ
いて振り返るいい機会でした。各施設の対応がいろいろ聞けた。自分が行っ
ているケアを作業にしてはいけなと感じた。中途半端な状態で仕事に従事
していた事に気がついた。ふだん利用者に対してケアが出来ていない事が
痛感した。

第5回 介護パラダイム研修会（1）

（参加 17施設 20名） 9月15日

法人（愛友会・福寿会・青松園・青山福祉会・敬愛会・千草きらら会・明合乃里会・育心会・愛恵会・菊寿会・玉城町社協・多気町社協・三重豊生会・斎宮会）

介護現場で問われているのは、介護の中身を変えていくこと、食事ケア・排泄ケア・入浴ケアをどう変えるか、痴呆への関わりをどうするかということが求められ職員が同じ方向に向かって利用者に接していくことが望ましい。

自分自身を知ることから始め、共感能力を身に着け感性を磨く努力をして専門的な知識と技術を身に着ける



講演 介護パラダイムの転換を目指して

講師 ホワイト介護総合施設長 北 正美

1. 問題提起
2. 認知症の歴史・介護ストレスとは何か？
3. グループワーク
4. 人間の尊厳について考える
5. グループワーク
6. あなたは私の代弁者になれますか

受講生の感想

利用者本位のサービスが提供できるよう務めたい。質の向上を考えて仕事をしている職員は少ないと感じた。職員と利用者さんの信頼関係があってこそよりよい介護が出来ると感じた。基本の大切さを認識した。

第6回 福祉レクリエーション研修会（4）

（参加 18施設 21名） 10月13日

法人（愛友会・福寿会・青松園・ウエルケア・安全福祉会・敬愛会・青山福祉会・斎宮会・明合乃里会・育心会・愛恵会・菊寿会・玉城町社協・多気町社協・宏育会）

一人ひとりの参加者が、レクリエーション活動を通して仲間との交流や機能低下を防止し、日々の生活を豊かにして、生きる意欲につなげる。食事の時、入浴時、寝ている時でもレク支援（生活支援）は出来る。

高齢者や障害者のレクリエーションはハンディキャップやマイナス面に着目せず、長所・潜在能力・自在能力や可能性の着目して生活を前向きに変えていく力を発揮できるようなレクリエーション援助をしていく。

レクリエーションの中にゲームを取り入れて利用者さんを楽しく生活の場に繋げて行き利用者の幸せ、助け合い個々の援助を行う。

福祉レクリエーションは楽しむ事が大事で出来るという喜びを与えることも大切なことで、福祉現場ではその人の持っている残存機能に満足するのではなく少しずつ階段を登るようにしていき出来ないからと切り捨てるのではなく引き出してやる事が大切である、また競争させるのではなく共感を考える。

毎日楽しく笑って生活できれば、健康で生きがいを持って生活できれば・・・レクリエーション財を通してアプローチ法を学ぶ。



講演 福祉レクリエーション

講師 三重県レクリエーション協会 加納安子

1. レクリエーションて

何、語源、とは、意義、目的（心と体の健康づくり、生きがいつくり、社会参加→自立支援）

2. 福祉レクリエーション

高齢者の現状、福祉とは（平等・共生社会・QOLの向上・質を高める）、捉え方、プロセスの活用

3. レクリエーション支援のポイント

伝達技術、展開・演出、（楽しさの本質を理解した支援、特性・個性

を考えた演目選び・人間交流と言葉がけ)

4. 実技指導

展開、やる気を作り出す、仲間と楽しむ、自己表現が出来る

受講生の感想

レクリエーションのもつ意味が理解できた、参加された施設でのレクリエーションの内容などを吸収できた、実技も楽しく出来ました、食事前の体操に取り入れたい、初対面の職員との交流が出来て楽しく研修が受けられた、無理なく楽しく心地よく毎日過ごしてもらえよう心掛けます、実技によっては自分なりにアレンジして使っていきたい、伝達技術を磨く必要性を感じた。

第7回 介護技術研修会（2）

（参加 16施設 20名） 11月17日

法人（紀和会・杏南会・ウエルケア・愛友会・敬愛会・青松園・エイジハウス・育心会・明合乃里会・南伊勢町社協・宮川福祉施設組合・多気町社協・青山福祉会・愛恵会）

車椅子での移動介助を実際に砂利道、段差、坂道で移動して室内や野外で利用者が体感していることを参加者もその場その場での恐怖感を感じながらお互い体験しながらの実技を中心と利用者に接する際の傾聴の心持ちの大切さ、小グループでのロールプレイングを行い初対面の参加者に向かって傾聴の実践等の研修内容となりました。



講演 介護技術研修（車椅子での介護技術）

講師 サポートさくら 大西道子、野口美枝

1. 車椅子での移動介助（野外での実技）
2. 利用者さんとのコミュニケーションのとり方
グループ・ワーク

受講生の感想

介護される経験ができて利用者の感じ方、普段の気持ちが少しわかった、い

きなり初対面の参加者の方とペアを組んでの実技でびっくりしたが初対面の利用者さんの不安な気持ちが体験出来た、利用者さんの立場になって色々な体験が出来た、操作する側の細かい配慮や声掛けの大切さを実感した。

コミュニケーションの取り方の演習では利用者さんにどれだけ共感出来ていなかったかを知れされた、聞く態度の大切さを実感した、講師自らの体験を研修に取り入れていたので分かりやすい研修でした、介護される立場になっての研修体験が出来た。

第8回 介護職場の課題解決研修会（6）

（参加 13施設 15名） 12月15日

法人（ウエルケア・宮川福祉施設組合・愛友会・敬愛会・青松園・育心会・明合乃里会・多気町社協・愛恵会・青山福祉会）

この、研修は介護・福祉施設の利用者やその家族の期待するサービスを常に意識しながら行動することが基本となる利用者本位のサービスの実施が求められる職場です。

また、乳幼児から老人、障害者と対象も広く、入所・通所・訪問・居宅介護支援などと形態も様々で従事する職員個人の知識やスキルなどの幅の広さが求められます。

しかし、これらの組織は施設の目的に適した編成になっていることが多く、職員一人ひとりが持つノウハウ・知識・経験を活かすために施設を越えた交流が重要になってきます。

そのため、関係者の対話とコミュニケーションによる経験の共有が仕事の質の向上に大きな影響を与えることから日頃の経験が気楽に交換できる場の設定も重要と言えます。

また、「福祉の受け手はお客様」「選ばれる福祉サービス」の時代です。素のために“質の高いサービス”を生み出す努力が必要です、利用者がお客様となれば、今まで遠慮して口にしなかった苦情の解決も求められてきます、お客様の希望に適切に応えられるために福祉の分野にも企業努力が求められるのです。

福祉改革により、これからの福祉事業の経営には「顧客本位」と「全員参加」と「継続的な改善」を進める活動が不可欠となってきます。

たとえば、職場にはいろいろな問題が発生するものです、その問題を放っておくと段々と大きくなり、取り返しのつかない状況に追い込まれてしまいます。

1：29：300の法則（ハインリヒの法則）、これは一つの問題の奥には29もの中問題があり、29の中問題の奥には300もの小問題があると言われていて、それらの問題を日常業務の中で解決していくことが“利用者へのサービス”につながっていきます。

民間企業では、1948年からQC手法を導入し、そのQCサークル活動を通して企業が発展してきました、既に、福祉の職場でもQCサークル活動に取り組んでいる所もあります。

問題の解決には有効的で且つ効率的な『手段や方法』が必要です。問題の解決を体系的に捉えて解決を図っていく手段である『QC手法』を勉強します。



講演 課題解決研修会“職場の改善は、自分達で”

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. 職場の問題発見
目標を高く掲げることによって生じる「目標と現状のギャップ」を克服する
2. 問題の捉え方
3. 問題解決の三要素
(感知力・構想力・実践力)
4. ブレストーミング
5. 問題解決の手順
(各ステップで壁に突き当たった場合は前のステップに戻ってやり直すことが大切)
6. 改善のステップ
PDCA管理のサークル（計画・実施・確認・処置）
7. 問題発見の着眼点
(問題点の洗い出し・テーマの選定・テーマ名の付け方)
8. QC7つの手法
(特性要因図の作成・特性要因の分析・対策の立て方)
9. QCサークル活動
(品質管理（QC）の定義・QC 7サークル活動とは・QC 7サークル活動の意義) 経営理念・行動のものさしを全員で考え、智恵を出し、汗を出し、協力しあい、職場の問題点を解決することによって、職場の活性化・お客様サービスの向上・経営効率の向上を目指す活動になる

受講生の感想

自分の考えを話す機会も少ないので発言できたことも成果に繋がった、色々な考え方や物の見方があることにきずいた、「何でこうなるのか」という課題を図に表すだけで原因の解決になることがわかった、他施設の困ったことや意見が聞けた、業務に追われて利用者とのコミュニケーション不足が聞かれた、参加者が同じ課題をかかえていることが聞かれた。

第9回 リーダー研修会 (6)

(参加 14施設 19名) 1月19日

法人 (愛友会・こしば福祉会・邦栄会・敬愛会・青山福祉会・鈴鹿福祉会・キングスガーデン三重・多気町社協・名張厚生協会・ウエルケア・紀和会・菊寿会)

施設では人材がとても大切です、また職場においても人材は業績を大きく影響を与えます、職員の中でもリーダーになる職員の影響も大きくなります。

今、注目されております職員研修で集団を統率し人を動かしリーダーシップを発揮していく職員の養成、職場の中でも部下に対して「期待」「関心」を持ち成長に必要なポイントにきずかせ自己啓発をさせ成長を促し部下の指導をしていく上で特に必要になるコーチング技術の習得を目的とし参加者が実践的なコーチング内容の会話を作り実習に取り入れた研修であります。



講演 リーダー研修 “CSの心を高めよう!”

講師 エム・アール・シー

1. オリエンテーション
2. リーダーシップ
定義、指導者のあり方、心得
3. チームワーク
実習、活動のポイント、コミュニケーションの取り方
4. コーチングの基礎
ティーチングとコーチングの違い、三原則、会話の心掛け
5. コーチングの実践
実践フォロー、コーチングモードへの切り替え、話し方の工夫 (話し方・聞き方)
6. コーチングの実習
話法 (導入→会話・事例→確認)、指導ストーリー作成 (発表)、タイプ別コーチング
7. まとめ

受講生の感想

相手の気持ちになって注意・指導することの大切さを痛感、相手の意見を聞きだす重要性を痛感、指導することの難しさを実感、リーダーの役割、チームの団結力を生かし仕事の向上サービスの向上の大切さ、部下が安心して働ける職場にして行きたい、相手の力を引き出し語らせることの大切さが必要、との意見が聞かれ充実した研修となった。

老人福祉団体運営活動事業

91,800円

第14回吉田福祉基金杯GB大会

後援（財）吉田福祉基金 5月15日

年々チームが減少するなか吉田福祉基金杯ゲートボール大会は県下の大会においても一番大きな大会となり本年度も県内各ブロックから大会参加希望が沢山伝えられた、本大会ではより多くのチームが参加出来るよう多気スポーツ公園野球場に13面のコートを作り大会を実施した。

天候に恵まれゲートボール会場に春の日差しがそそぐなか、田村憲久衆議院議員を始め多数の来賓を迎え県下78チームから500名の役員、選手が参加し前年度優勝の伊賀オールズ主将の選手宣誓により競技を開始し、選手たちは優勝に向かいチーム一丸となり一つでも多くのゲートを通り越せようと、日頃の練習成果を発揮し真剣にプレーしチーム間の融和を図りながら和気あいあいに競技を進めた。

優勝 天啓クラブB（多気町）チーム
準優勝 南 島（南伊勢町）チーム
3位 河 芸（津市）チーム



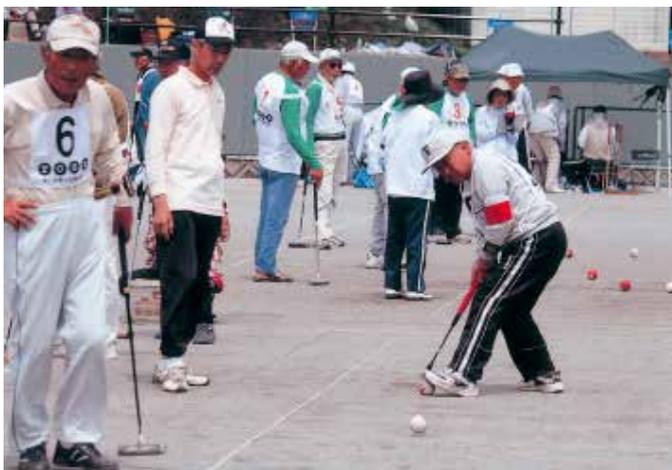
久保行央大会会長挨拶



開会式



選手宣誓



大会競技



優勝 天啓クラブB (多気町) チーム